

あすなろ授産所のボランティアさんたち

あすなろ授産所は、たくさんの方々にお手伝いしていただいたり、協力していただいたりしています。そのひとつに「エコペア」というグループがあります。エコペアさんは、あすなろ授産所を卒業された利用者さんのご家族が、毎月1回 最終月曜日に集まって、あすなろ授産所の作業（木管作業）で出る毛糸を利用して、きれいな座布団を編まれています。その座布団を販売して売上金を「あすなろ授産所の利用者さんのために使って下さい」と寄付して下さっています。エコペアさんから寄付していただいたお金は利用者さんのボーナスとして使わせていただいています。

その他にも、行事の時にバスの運転をして下さるボランティアさん、遠足やイベントにいっしょに参加して、お手伝いや盛り上げて下さるボランティアさん、思い出をカメラに残して写真をプリントしてプレゼントして下さるカメラマンさん、お楽しみ会などの食事を作って下さる調理師のボランティアさん、あすなろ授産所で取り組んでいる さをり織りの布を製品にして下さったり、その製品の販売の機会を作って下さる方、などなど、あすなろ授産所のボランティアさんたちは、いろいろな場面で大活躍の大切な存在です。

ちょっと情報 障害ある人の「親なきあと」のお金の残し方と管理のしくみについて

「子供のためにお金をいくら残せばよいか？」を考えるよりも、そのお金が本人の将来のために使われる仕組みを準備することの方が大切です。

信託ということをご存知でしょうか？信託にもいろいろなものがあります。

- ①福祉型信託制度…親が財産について信託契約を結び、自分が亡くなったあと子どものために給付を受け、その子が亡くなったのちの財産の行き先も指定できる。
- ②生命保険信託…死亡保険金を一括ではなく、信託財産として定期的に受け取るようにすること。
- ③家族信託…信頼できる人を受託人として、親の財産を障害ある子どものために活用してもらうこと。
- ④信託銀行の個人向けサービス…特定贈与信託と遺言代行信託があり、特定贈与信託は運用益は期待できるが信託報酬や管理費用がかかる。贈与なので途中でやめることができない。一方、遺言代行信託は一時金型と年金型があり管理報酬がかからない。又、親の健康状態を問わない。（保険との違い）

それから制度についてですが、制度も様々なものがあります。

- ①障害者扶養制度…保護者が死亡または重度障害になったとき、毎月2万円（1口）の年金が生涯にわたり支給される制度。
- ②個人型確定拠出年金…親と同居中に障害基礎年金を積み立てておいて、将来の老後資金にする。
- ③成年後見制度…法定後見と任意後見があり、法定後見は本人の能力に応じて「後見」「保佐」「補助」のパターンがある。
- ④日常生活支援事業…成年後見の簡易版で社協などから職員が派遣され見守り、本人の意向に沿った支援を受ける。

最後に子どもがお金に困らないための5つのポイントです。

- ①定期的にお金が入って来る仕組みを用意。（年金、手当、信託など）
- ②そのお金が子どものために使われる仕組み。
- ③病気のリスク対応のために保険に加入する。
- ④住む場所を確保する。
- ⑤困った時に頼れるルートを確保しておく。ことが大切です。又、地域の中に拠点を多くもつこと、親自身の社会参加が大事です。

編集後記

明けましておめでとうございます。

昨年は、地震、台風、猛暑といった自然の怖さをつくづく思い知った一年でした。被災された方には、心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今年は、平和で穏やかな一年でありますようにと、心より願っています。あすなろ授産所は、今年も利用者様、ご家族、スタッフみんなが健康で笑顔で過ごしたいと思っています。

さて、堺愛育会の活動にご賛同、ご協力していただける方の入会を募っております。会費は1口1000円です。よろしくお願ひ致します。



振り込み先：ゆうちょ銀行 00910-7-310506
堺愛育会 (オレンジ色の振り込み用紙です)

陽の丘

(140号) 平成31年1月発行
発行 堺愛育会 鈴木 之人
編集 堺愛育会

〒593-8312

堺市西区草部493番1
あすなろ授産所内 TEL 072-271-8001
FAX 072-271-8002

「知的障がい者に暖かい太陽の光をあてるようにしなければならぬ。その人達の住むところ・集まる場所は、陽光のサンサンとふりそそぐ、陽のあたる丘でなければならぬ。」
その意味で「陽の丘」と名づけた。
深瀬 孝一

年頭のご挨拶

堺市

健康福祉局 障害福祉部
障害者支援課長 眞鍋 昭生

昭生

堺愛育会 会長 鈴木 之人

明けましておめでとうございます。堺愛育会の皆様におかれましては、新しい年の始まりを健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。また、旧年中は、本市障害福祉行政に、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

あすなろ授産所におかれましては、障害者の方々の日中活動の場として、働きたいという思いや利用者のニーズに応じた支援に取り組みされていると共に、イベントなどを通して近隣の方とも活発に交流されており、利用者や住民の方に親しまれる授産所となられていることを嬉しく思います。また、利用者の方が製作されている「さをり織り」製品は、バザーなどでも人気が高く、皆様の熱意と工夫の成果であると感じています。本市でも、授産活動の活性化に力を入れていくところであり、今後の活動に大いに期待し、また、楽しみにしています。

本市におきましては、昨年三月に策定した「第5期堺市障害福祉計画・第1期堺市障害児福祉計画」に基づき、地域社会全体で障害者の自立や社会参加等を支援し支える福祉の仕組みづくりを進めるため、サービス基盤の充実や社会参加の促進に取り組んでいくこととす。

今後、障害のある方が住み慣れた地域でその人らしく、いきいきと暮らしていけるよう、引き続き取り組みを進めて参りますので、皆様方におかれましては、ご支援・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

結びにあたり、この一年が皆様にとりまして実り多い年になりますとともに、堺愛育会のさらなるご発展、会員の皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



明けましておめでとうございます。昨年は、あすなろ授産所が創立五十周年を迎えました。今年は次の半世紀に向けてのスタートの年でもあります。あすなろ授産所のますますの繁栄、躍進を願っています。

さて、今年が亥年です。猪突猛進の言葉の如く、あすなろ授産所の理念のもと、まっすぐに突き進んでいきたいと思ひます。堺愛育会も後援会として、今後ともあすなろ授産所に協力、応援していきたいと思ひます。

結びに、今年一年、皆様にとつて、良い年でありますように、ご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

ワールド牧場

12月8日に「ワールド牧場」に行きました。少し寒かったですが天気は良く、ふれあいひろばではヤギ、羊、アヒルなど近くで見たり手で触ったり、エサをあげたり、記念撮影もしました。

イルカのプールもあり芸達者なイルカの愛嬌あるポーズに思わずにっこりしました。また、室内では犬や鳥のショーがあり、拍手喝采で大に楽しみました。

昼食はグループに分かれて好きなものを注文して食べました。うどんや焼き肉などおいしくいただきました。

売店でお土産をかったり、休憩所でおやつを食べたり、またひとつ良い思い出ができました。



西区ふれあいまつり

11月10日に堺市西区役所で開催された「西区ふれあいまつり」に参加しました。この日は天気も良く過ごしやすい気候でした。

午前中参加したグループはバザー用品やマジックショーを楽しみました。たくさんの方が来ていて、なかなかスムーズに見ることができませんでした。皆さん笑顔で参加できていました。

午後から参加のグループは少人数に分かれて見て回りました。午前と比べると人も少なく比較的スムーズに出し物を見ることができました。スタンプラリーのスタンプを集めるために利用者さんもスタッフも真剣でした。

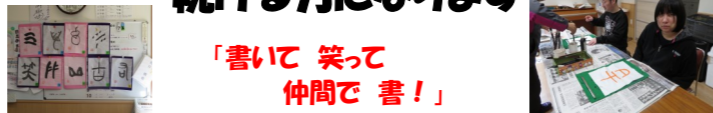
他にも健康に関するブースがあり、健康に関心のある利用者さんは進んで体験していました。

最後の頃になると商品があまりなく残念でしたが、マジックショーで大盛り上がりでした。

あすなろ授産所は、さをり織りの製品を出店しました。たくさんの方にあすなろ授産所のさをり製品を見ていただき、買っていただき、みんなが楽しく過ごすことができました。



みんなのやる気が 続ける力になります



「書いて 笑って
仲間で 書！」

新しい場所に来て2年目です。周りのようすにも慣れて、元気に過ごしています。作業や季節の行事をしながら「書くこと」をしています。少しずつ仲間も増えてきて、にぎやかな金曜日の午前中です。準備も片付けも、各々の利用者さんのできることを1～2つつづけていただいています。スタッフの支えも大きな力で、気分ののらない方もいけない言葉をかけられると、やる気になってくれます。

年に1回「きらっと」さんのご好意で仲間の作品の展示会をしています。見ていただくだけで“おおきなサプライズ”をもらったと仲間と共に喜びあえます。

今後もずっと「書くこと」を続けていきたいと思えます。



おたのしみ会

8月にお楽しみ会を開催しました。たくさんの方の利用者様、ご家族様が参加して下さいました。射的、輪投げ、ボーリングで遊び、射的は難しいながらも上手に当て高得点を獲得していました。昼食は手作りの冷麺といなりずしとタピオカミルクで、とても美味しく皆さん笑顔でいただきました。

午後からはビンゴゲームをしました。全員に景品が当たりますが、なかなか数字がそろわずドキドキしている方もいらっしゃって楽しく夏のひと時を過ごしました。



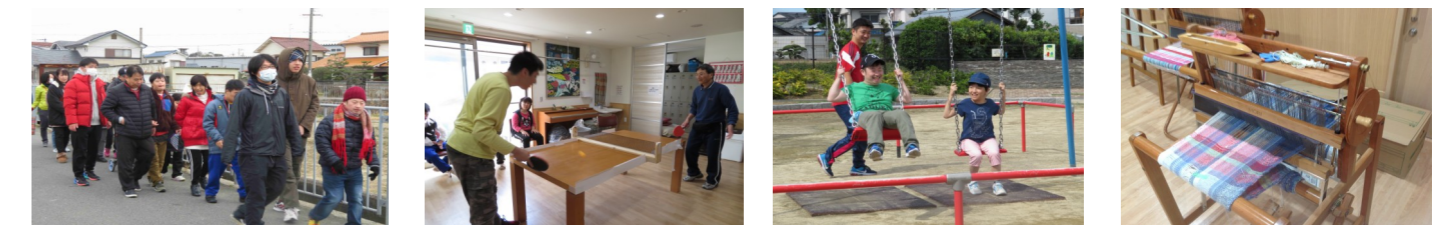
あすなろ授産所の取り組み

あすなろ授産所の日中活動は様々な活動があります。午前中は近くを散歩しています。午前中に外に出て歩くことは、イライラしなくなったり、夜によく眠れるそうです。作業は自転車部品の袋詰め、箱折りなどの軽作業、木管作業（じゅうたんを織った残糸が巻きついている棒から糸を抜き取る作業）、自主製品でさをり織りやブラバンやアイロンビーズの製作をしています。

作業以外では、音楽活動、創作活動（絵画、制作）、書道（篆書）、勉強会があります。勉強会というのはその時々で情報や知識などをテーマに、例えば「ヘルプマークについて」「熱中症について」「防災について」また「遠足の場所や内容を決める」「何か困っていることはありませんか?」「〇〇さんの良い所はなんですか?」などなど、みんなで話し合ったり、意見を言ったり、他の人の意見を聞いたりしています。「勉強会」と呼んでいますが、勉強することの他に、自分の意見や想いを相手に伝える。人の話を聞く。相手のことを考える。自分を振り返る。など様々な意味があります。

あすなろ授産所では「経験する」「体験する」ことを大切にしています。例えば、熱中症の勉強会の時に話をするだけでなく、経口補水液を買ってきて実物を見たり、飲んでみるということ、避難訓練では「ライフラインが止まるという事は?」を実体験しようとシャッター、カーテンを閉めて部屋を暗くして、ランタンや懐中電灯で過ごしてみたり、カセットコンロで湯を沸かしてカップ麺やマジックライス、カレーの温めをしたり、シートイレという水のいらぬトイレを手にとってみたり、シュラフで寝てみたりという体験をしています。

これらは一部ですが、あすなろ授産所ではリアルな支援、分かりやすく、理解しやすくという工夫を心掛けています。



インタビュー「あすなろ授産所に来てどうですか?」

～ 今年度来られた利用者さんへのインタビューより ～

今年度あすなろ授産所に来られた3名の利用者さんへ個別にインタビューをしました。インタビューは、「あすなろ授産所に来てみてどうですか?」という感想を伺うような内容でしました。3人はそれぞれに短時間ながら、いろいろ進んで話をして下さいました。

Aさん(女性)は「(あすなろ授産所に来るにあたって)職員さんは、以前から知っていたので不安はありませんでした。(あすなろ授産所では)みんなでおしゃべりできるのが楽しい。家にいたら何かあっても誰も気づいてもらえないが、あすなろ授産所にいたらみんなが見てくれるので安心です。」と話してくれました。

Hさん(男性)「あすなろ授産所に来てから4カ月ほど経つけど、皆さん友だちのような感じで、職員も優しく思います。前の職場とは雰囲気は全然違います。仕事も慣れてきました。さをり織りも少しできるようになりました。」と話してくれました。

Iさん(女性)は「初めての職場でここしか知りませんが、あすなろ授産所は楽しいです。他の利用者さんとも仲良くなれました。職員の皆さんも優しいです。家にいる時は(一人で)しんどかったけど、あすなろ授産所に来てからは(仲間がいるので)しんどくなくなりました。」と話してくれました。

3人の方のお話から、仲間と一緒に仕事をする事で人とまじわる楽しさや、外に出て働く場所があるという事がいかにその人の人生を豊かにするかということに改めて実感しました。そういう意味でも、あすなろ授産所は利用者さんのためにこれからも発展し続けたいと思っています。

